

遊学舎武雄こども園 園だより

2025(令和7)年1月号

「174のころ」

ある日、ふと園庭を見ると、さくらぐみのTくんが、ゆりぐみのKくんに靴を履かせてあげたり、「おいで」と呼びかけている姿がありました。そのTくんの姿は表情が柔らかく、体中から優しさが溢れているようでした。またKくんもそのTくんにすべてを委ねており、優しさに包まれているようでした。そんな二人の姿に主幹保育教諭と一緒に、「異年齢の関わりってこんなにも優しい心を育むんだね。とってもステキな、いい経験だね。」と感動し、心が温まりました。

それからしばらく経った朝、0・1・2歳児さんが一緒のお部屋で過ごすときのことで、私の膝には、ふたばぐみのSくんが座っていました。そこへトコトコとやってきたKくん。どうしたのかなと見ていると、お皿にままごとのケーキをのせてSくん「はい」と渡してくれたのです。

私は少し驚いて「Sくんにくれるの?」と聞くと、こくんと頷かれました。Sくんはもちろん嬉しそうにそのケーキをパクパクと食べられました。

”優しさの連鎖”この言葉がぴったりの二つの出来事でした。

時々「この子は末っ子なの」とか、「一人っ子だから甘えん坊さんで」ということばを耳にします。また実際私も息子に対してそう思うことがあります。

でも一歩外へ出ると、自分より小さくてかわいい人たちがいる。そのことを子どもたちは自然と感じ取り、優しく接することができる。

そして、優しくしてもらった子が、今度は自分よりもっと小さい人たちに優しくできる。

”優しくしてもらったという経験は次の優しさを産む”ことを目の当たりにして、心の底から感動しましたし、同時に私たち保育者も、子どもたちから発せられる優しさに気づき、より一層優しさで包み込んであげられるように関わっていこうと思います。





あけましておめでとうございます  楽しい年を迎え、ネコ日の朝月の出来事です。こども園で「一番小さいふたばぐみさんですが、なんと頼もしいのしょう!」子どもたちの成長は本当に著しく、「もうこんなことが出来るようになったの!!」と日々驚かされるばかりです。一人ひとりのそんな姿を見返すと、2025年も保護者の皆様といっしょに子どもたちの成長の足跡を見守っていきたいと思います。子どもも大人も笑顔いっぱい、1年に!! 本年もどうぞよろしくお願い致します。

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。今年も穏やかな小春日和の年明けとなりましたが、皆様のお正月はいかがでしたでしょうか。

さて、少し遡って年末のある寒い日。お昼寝が始まってしばらくしてから、私は3歳児さんのお部屋を訪ねました。じんわりと温まったお部屋の、小さなコットの上で、まだ眠れず、こちらを可愛い目で見ている子。指しゃぶりをしながらまどろんだ姿でいる子。すでに、ぐっすり夢の中にいる子。

そして静まり返ったお部屋で響くのは、その子どもたち全てから聞こえるスースーという沢山の寝息。何か声を発するわけでもなく、しかしまるで会話をしているように、保育者が優しく撫でる子どもの背中。うまく言葉にはできないけれど、私はその全てを通して、こんなに幸せな空間があるのだろうか、と思いました。この子どもたちの息づかいがずっと守られますように。この温度がずっと守られますように。それだけでいい、それこそが全てだ、と思える、そんな空間でした。

日常は、ままならないこともあるし、悩むこともある。だからこそ、ここだけはずっと変わらず平和だ、と思える場所がいつもあること、が誰にとっても大切。今年も私たち武雄こども園は、そんな場所を目指し、日々自らを深め、立ち返り続けて参ります。

